

令和5年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、四字熟語、慣用句等の継続的な語彙の定着が曖昧になっていることが多い。 本文を根拠に自分の考えを論理的に言語化して表現することが弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の反復練習や辞書を使った意味調べの実施をする。 漢字テストや語彙テストを定期的に実施する。 本文の根拠となる部分にチェックをする等の可視化を随時行う。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用。 説明が長くなると生徒が問題を解く時間が少なくなってしまう。 生徒が自分の学習を振り返り、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形や関数分野でICTを活用して授業を展開する。 生徒が学び合う時間を多く取る。 小単元ごとや定期考査の振り返りを行い、理解度を深める。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考える力や科学的な考察力がない場合が多い。（生活経験等の不足） 実験の指示を集中して聞けていないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の復習を丁寧に行い、必要に応じて導入実験などを行い確認しながら授業を進めていく。 ICT教材やプリントを工夫し端的に説明できるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査から技能から思考に向けて、1つの資料の読み取りの正答率は8割を超えるが複数資料を関連付けて考える問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、1つの資料からの読み取りは継続しながら、複数の資料を関連付ける作業を取り入れ、そこから考えられることを推論する時間を増やしていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 説明や、実技練習に集中力を保つための工夫が必要である。 読譜のための基礎知識を学ぶ時間を取り入れる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜやるのか、何ができるようになるためか、説明を必ず入れモチベーションを引き上げる。但し説明時間は短くする。 授業の最初に5分間取って1回の授業で2つの音楽用語と表現を教え積み重ねていく。2つだけにする。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 美術に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、その表現手段が乏しいため、基礎的な表現能力を育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の使い方や筆の使い方、絵の具の使い方、ものの見方など、今後作業していく上で必要な基礎基本の定着を図る。また、どの課題においても「描く」ことよりも対象を「観る」ことに重点をおいて指導し、集中して作業する習慣を付ける。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 学習に対しての意欲はあるが、1つの内容について理解するまで時間がかかる。1時間という時間の中での実習は個別の対応が難しく、進度の差が出やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 物づくりに対する意識を高める指導を行う。発想を引き出す指導を展開していく必要がある。ノートを細かく確認し、個々のつまづきを知る。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> よく聞き、よく活動する生徒が多いが、見通しをもって作業に取り組むことが苦手な生徒が多い。 提出物への認識が低く、授業プリントを遅れたり、出さなかったりする生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連続して作業を行う授業のときは、振り返りシートを用いて、見通しをもたせるようにする。 「プリント」の提出から「クラスルーム」での提出に形を変え、徹底して提出させるようにする。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 全身持久力が低い傾向にある。 時間の管理が苦手で、集合や提出物の遅れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業で、ランニング・補強運動・種目別のウォーミングアップを実施する。 授業でのゲームなど、タイマーをかけ自分達で時間をみながら動けるようにする。また、チームで実施する場合は毎回、時間係の役割分担をする。 提出物の提出について徹底させる。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのGoalから授業内容をデザインする。生徒が主体的に活動に取り組む態度を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitで身に付けさせたい力を設定し、内容に応じたパフォーマンステストの機会を設ける。 パフォーマンステストに応じた帯活動を実施する。 Quizletやデジタル教科書、JamboardなどのICTを活用し、生徒が能動的に活動する時間を増やす。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 小学校5, 6年の漢字の書き取り。 読解問題で、抜き出しではなく、自分で考えて記述することに慣れていない。 本文を要約する、新しく習ったことを利用して問題演習するなど、自ら考えて取り組むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストで繰り返し、問題演習を行う。 授業中、自分で考えたり友達と意見交換したりする機会を細かく設ける。 スモールステップで解けるような課題作成、友達と教え合うなど協力しながら考える力を育む。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや問題解決の過程を筋道立てて説明させることができていない。 問題解決にあたって、生徒が自分で題意を把握し、見通しをもつことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中の式や考え方も黒板に書かせて、自分で説明させるような発表の機会を多くつくる。 図形の証明の問題では、解答を書く前に、与えられた条件にもとづいたできるだけ正確な図をかくように指導する。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 『知識・技能』の中でも、特に実験技能に関する力を育てる指導をする。 『思考・判断・表現』の中でも、特に表現に関する力を育てる指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験操作、器具の扱い方に関するパーソナルテストを行う。 実験・観察後に、「見やすく」「分かりやすく」見る相手に伝わるようなレポート作成を指導する。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査では1つの資料の読み取り正答率ができるが、複数資料を関連付けて考える問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、1つの資料からの読み取りは継続しながら、複数の資料を関連付ける作業を取り入れ、そこから考えていく時間を増やしていく。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 説明や、実技練習に集中力を保つための工夫が必要である。 数々の名表現に感銘を受ける感性を育てる工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜやるのか、何ができるようになるためか、説明を必ず入れモチベーションを引き上げる。但し説明時間は短くする。 よい表現を教師が示したり、仲間の表現でよいものがあったら味わわせたりする。又見本となる音源を聴かせる。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現手段の乏しさを改善するため、様々な技法を知り、表現能力を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 西洋絵画の技法を学んだり、様々な素材に触れる題材を用意したりすることで、1年次で学んだことを発展させていく。 技法をできるだけ具体的に丁寧に説明し、判断材料を増やすことによって自ら主体的に取り組めるよう働きかける。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> 学習に興味・関心をもち、課題解決に向けて取り組む生徒が多い。1時間の授業を大切にできる姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業の流れを掲示し、授業の見通しをもたうえで具体的で簡潔な授業のねらいを明示する。 実習では、その時間の作業目標・作品例を示しながら説明する。目標を具体化することで、作業に集中して取り組めるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 分からない、できないことに対して、自分からヘルプを出すことが苦手な生徒が多い。 ものづくりの授業では、全体指導だけで理解が得にくいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別指導を意識して行い、生徒一人一人の進捗、習熟度を確認しながら授業を行うようにする。 ものづくりの授業では、ICT 機器や具体物を使って、視覚的に分かりやすい説明を心掛ける。 写真や動画を使い、全体指導の後も、個々で振り返りやすいようにする。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 技能のポイントを捉え、自分自身の身体で表現することが苦手である。 対話的な学習が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに技能のポイントを図とともに記載し、スモールステップ学習を取り入れ、一人一人に合った課題を解決できるようにする。 対話的な学習をする際に、見てほしいポイントや課題を、あらかじめ相手に伝えてから学習をするようにさせる。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの Goal（何をできるようになるか）から、つながりを意識して、授業内容をデザインする。 生徒が主体的に活動に取り組む態度を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各 Unit で身に付けさせたい力を Unit に入る前に設定し、内容に応じたパフォーマンステストの機会を設ける。 Chat 等、帯活動の充実を図り、「即興で話す力」を身に付けさせる。 個人・ペア・グループといった段階的な活動を取り入れることで、友達と学習すると学びが深まることを実感させる。 Quizlet やデジタル教科書、Jamboard などの ICT を活用し、生徒が能動的に活動する時間を増やす。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項について習得がおろそかになっている生徒もおり、力の差が大きくついている。 読解における思考に、具体性がない場合があり、指示を多く出す必要がある。 キーワードを探すことはできるが、そこから筆者の考えを抜き出すことが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での知識分野における問題演習を数多く行い、習得させていく。 指示を通して具体的な思考となるように指導していく。 キーワードから筆者の考えにつながるよう練習を重ねる。 		
数学	<ul style="list-style-type: none"> 指導内容的に、具体物や視聴覚教材を用いての説明が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、生徒の理解をより促すため、具体物や視聴覚教材を用いて授業を行う。特に、関数、図形領域においては、効果的に適用していく。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験の意味や要点を理解し、論理的に文章で説明することが苦手な生徒が多い。 分数の割り算など、基本的な計算問題の間違が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の考察をするにあたり、1学期は質問に答える形式で考えさせることで実験の要点を捉えることができるようにし、徐々に自らの言葉だけで考察できるような形式に変えていく。 計算問題を授業に多く取り入れ、練習していく。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査より複数資料を関連付けて、社会的な事象を説明する問題の正答率があがってきた。日々の授業で、複数の資料を根拠に生徒の意見を引き出す場面の設定が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業において、複数の資料を根拠に生徒の意見を引き出す場面を数多く設定する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ知識を生かして読譜をしながら表現に結び付けるための道筋の示し方の工夫が必要がある。 鑑賞の授業において、めあてや音楽の要素を感じ取ることでできるワークシートの工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ練習や全体表現の場で、その日の2つの音楽用語をきちんと取り上げて、知識が表現できるように指導する。 発問を工夫したワークシートを作成し利用する。 		
美術	<ul style="list-style-type: none"> 作品制作に対して前向きに取り組む雰囲気は出来ている。一人一人がもう一步先の表現を求め、習得していく粘り強さが必要である。また、作品を制作する上で進度に大きな個人差ができてしまうことも課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで培ってきた基礎的な技能、表現能力を生かせる発展的な課題設定を心がける。 個別指導の充実。 進度の差については作品が完成するまでにいくつかのステップを用意し、その都度足並みをそろえられるよう工夫する。 		
技術	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりなどの実習から課題や問題点を発見し、レポートや振り返りカードに整理して書き込めるようにする。その機会を授業内で増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー変換に関する技術の学習では、時数の少なからキットの製作になるが、学習ワークを活用して不足する設計に関する学習内容を補てんする。 生物育成に関する技術の学習では、生物育成の実習だけでなく、育成の結果を共有し、適切な育成条件の検討などもグループワークで取り組む。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを、実生活と結び付けてとらえることが苦手な生徒がいる。 自分の意見や考えを積極的に表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最初と最後に、自分のことを振り返らせる時間を必ずとるようにする。 話し合い活動やロールプレイングなど、言語活動を意識した授業を展開する。 		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身で考え行動し、他者に伝えることが苦手。 自分の動きを理解し、改善することが苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの練習方法を提示して選択できるようにするとともに、多くの成功体験を経験させ、自己肯定感を向上させる。 ICT機器を活用して、自分の動きを客観的にみることができるようにし、見本と比較し改善できるようにする。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのGoal（何をできるようにするか）から、つながりを意識して、授業内容をデザインする。 生徒が主体的に活動に取り組む態度を向上させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitで身に付けさせたい力を事前に設定し、内容に応じたパフォーマンステストの機会を設ける。 Chat等、パフォーマンステストに応じた帯活動の充実を図り、自分の考えなどを「即興で話す力」の向上を図る。 デジタル教科書などのICTを活用し、タブレット端末を活用した授業の改善・充実を図る。 ペア・グループ活動を取り入れ、生徒たちが教え合い、学び合う機会を多く設ける。 		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。